

各調査者の報告データ数(五十音順・敬称略)

石川 正雄	14
石川 正雄 深見 弘	47
石原 則義	29
岩月 秀範	726
大谷 敏和	332
大野 耕也	334
奥居 達朗	179
鬼頭 弘	610
鬼頭 弘 岩沙 雅代	87
鬼頭 弘 日比 理智	17
木村 修司	179
倉光 七三	80
小島 高志 大野 耕也	17
相良 洋子	84
杉澤 周子	24
鈴木 寛之	23
滝川 正子	6
瀧崎 吉伸	120
中根 幸司	30
馬場 隆之	24
日比 理智	11
深見 弘	270
深見 弘 山原 勇雄	120
降幡 光宏	144
松山 太	10
水谷 宗保	314
三田 孝	61
三津井 宏	20
南川 陸夫	152
南川 陸夫 大野 耕也	17
谷澤 典夫	67
山内 邦夫	71
山下 眞志	39
山田 みつ子	22
山田 みつ子 大野 耕也	27

2011～15年にかけて調査をしていただいた、県内の竹類(モウソウチク・マダケ・ハチク)の調査結果を、ようやくまとめることが出来ました。当初予定していたGIS利用のまとめは、コンピュータととりまとめ者の能力を超えてしまい、表のような形でまとめとなってしまいました。能力不足とまとめの著しい遅れについて、深くお詫び申し上げます。

さて、調査結果を見ると、いかに竹類の管理状態が憂慮すべき状態である(あった)かが如実に明らかになりました。中でも、筍としての食用利用の無いマダケとハチクの管理状況は目を覆うばかりです。モウソウチクについても、そのほとんどが食用利用されておらず、成長速度と繁殖力の上からは一番問題が大きいとも考えられます。

2019年頃から、県内のハチクが一斉開花し、ハチクについては枯死する群落がかなりできていますが、残っている群落は手入れされてなかったり、枯死したままの竹林が残されていたりという状況も目にします。

一方で、モウソウチクの筍を好んで食べるイノシシが豚熱の流行により減少しているのも、今後の不安材料でしょう。

SDGsの目標の一つである陸上生態系の多様性を守ろうの観点からも、竹林の管理に留意するよう声を上げる必要が、まだまだあると考えています。 調査・保全担当 瀧崎吉伸